

クビアカツヤカミキリに注意！ もも・うめなどの樹を食害します！

1 発生状況

- ◆令和元年 11 月、かつらぎ町のもも生産園地において、排出されたフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）が発見されました（図 1、2）。フラスを森林総合研究所（茨城県つくば市）に送付して解析を依頼したところ、クビアカツヤカミキリによるものでした。本虫が県内で増殖している可能性があり、来年の春以降に成虫が飛び出すおそれがあります。冬の間に園地をよく見回り、フラスを発見したら最寄りの振興局または J A に連絡するとともに、防除対策を行うようお願いいたします。
- ◆平成 29 年 7 月、かつらぎ町の道路において成虫（雄 1 匹）が捕獲されたことから、早期発見を広く呼びかけるとともに、地域の関係機関が共同してモニタリング調査を行うなど警戒を続けています。



図 1 株元に溜まったフラス



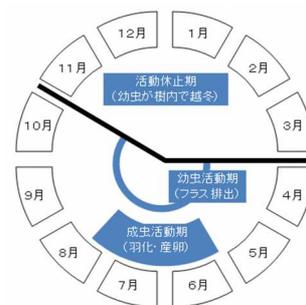
図 2 うどん状のフラス

2 生態

- ◆成虫の体長は 2.5～4.0cm。光沢のある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆成虫は 6～8 月に発生し、2 週間以上生きるが越冬しない。
- ◆幼虫は樹木内部を加害し、枯死させる。5～6 月に最も摂食活動が盛んになる。11 月以降は活動を休止し、樹体内で越冬する。
- ◆産卵は幹や樹皮の割れ目に行われる。
- ◆さくら、うめ、もも等、主に、ばら科樹木を加害する。



雄成虫（提供：大阪市立自然史博物館）



生活環

（大阪府「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参考に作成）

3 防除対策

- ◆11月以降は幼虫が樹木内で活動を休止しているため、被害木を伐採、破碎あるいは焼却するなど、適切に処分する。伐採できない場合は、樹の株元から1～2m程度の高さまで4mm目合いのネットを巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に移動するのを防ぐ。
- ◆農薬により防除を行う時は、スプレー型の農薬の場合は、千枚通しや針金を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してから注入する。針金が幼虫まで届く場合は、突き刺して殺虫するとより確実である。

【クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（令和元年11月21日現在）】

～～幼虫を対象としたもの～～

農薬の種類	農薬の名称	主な適用作物名
メタフルミゾン水和剤	アクセルフロアブル	さくら
フェンプロパトリンエアゾル	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾール	うめ、もも、おうとう、果樹類* 1、 樹木類
ペルメトリンエアゾル	園芸用キンチョールE	さくら
アセタミプリド液剤	マツグリーン液剤2	さくら
スタイナーネマ カーポカプ サエ剤	バイオセーフ	もも、うめ、食用さくら（葉）、 さくら
ジノテフラン液剤	ウッドスター	さくら
チアメトキサム液剤	アトラック液剤	さくら

*かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう（種子）、
くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く